東京帝國大學圖書之印

第十區

細小なる物を陰義しき物等の区あり

此区の第一類は象牙及び燭汁泥後ふ詳の細工もの鼈甲細工、鯨細工、青貝細工、蠟細工、漆細工等甚第二類は革もしくは唐紙なども作りたる物の極めて美麗を有せしもの第三類は雨傘、日傘扇の類なり第四類は鞭、杖等甚第五類は櫛類、刷毛類

東京會計局

其茅五穀を小児の玩びものあり

烟斗泥一名を水泡泥、英語ふくれメールシャウム

といふ色白く透明なるもの象牙の艶あきりの

如し天然の産物ふく地上各所より産出するもの

あり欧羅巴ふくれモラビヤのフリュブシキッツと

いふところ及び魯西亜のクリミヤのセバスト

ポール、カッファーなどといふ産し亜細亜ふ

てを土耳其領のナトリヤのキッチス、ビュルサーふ

どりへる地の波斯際の地の下あるいハ同所の

エスキシッサルといふ所の岩の中よりも出づ

此ところふを甚だしくあつてこれを堀り出

をを弾んどふ人の事業なりといふ烟斗泥を海

岸ふく堀り出す事多くして其形ち弾んど圓く

其色を雪の如く白き塊りなるゆえ昔を海中の泡

の化石なるべしと思ひメールシャウムと名ばけ

たる由メールシャウムとを狗乙語ふく海の泡と

いふ事なるこのもとを今を其質さだのふわの

ごとくへを烟斗泥九十九匁あるゆえ其内ふこリ

カ六十匁九分マグネシヤ二十六匁一分水十二

匁の比例なるといふられを堀り出したる初を

柔らかにして海ざらも石鹹の如しれを浸させ
て泥を生しよく汚きをおとして性あるをうつて
古耳其人を石鹹の代りとられを用ひ洗濯か
どるるはその烟竹泥を生ずる煙管を作るを用
うられ其質火熱を導ずるの性あるにて歳度煙草を
吸ふと雖も火皿の熱なる事あるを解るを
懲りあき故別に西洋より遠ふ一般の
流行となり煙管ふるふを獣脂ふく煮沸ふ
嘗ふ漬し後ふ木賊ふく磨くれるあるひはらを
細末ふし塗るをめくも作るいふ

煙竹泥の煙管を拵乙の製作らふ其名を忘よ
せし事久しかりしの今を奥地利の維納及び佛
蘭西等ふ製造人多くあるいづまもさるのの
雕を作したるふ維納製のかのりつも
美しきハ烟管一本の價凡そ五百余などか
るもあるとも其雕刻のかのしきをいく誰もこ
れを高價とを思ハざるはあるは

煙管を曲るもあるも直あるもあるて大小種く
あるとも其用を三通りあるを一を巻煙草葉煙草を巻き
たるものふく小口を火皿ふさして呑むふ用
洋名シガールと

う一を紙の巻煙草刻たるもの洋名をシガレットふ用ゐ一たあらく刻みたる煙草をわが國の如くはめく吸ふたるものあるをられを火皿甚だ大きくして其上等なるものを銀ふて作りたる蓋を着くるもあるをさて煙管を元来煙草をのむ用のみにて事足ずとも非常ふ大きくして雕刻したるふるものもあるをられを全く琉球物なるをいづれも持をよくして垢ふ附のざるやうふし煙草を呑むふ適宜ふ茶色ふ澤る艶のいでくるをよしとすふ其おもむきをこゝふたゝ

八支那人の煎茶を愛しわが國の人鍊細工のものゝ在よき艶を生じ来る味をめづふが如く又京都の研亭焼の急須ふく茶を薬ど次第ふ是をのいで来るをたのしむふも似あをされだたくあるふ從ひいよ〳〵其價を増をものを煙斗泥ふて作りたる煙管ふあをしいへを煙管の雕刻を甚だぶやが國のものゝ美あを人の涙を雕りたるもの最も美しあるを獣草花ふ雕りたるもあるを吸口を琉珀あを下等あるものゝを擬琉珀を用うもども手色を艶をしたる物

ふよく仰くいこうふも帝驥ふつくを出せを
象牙細工もまゝ各國いづれも精細あをこゝふ
猶乙奥地利佛蘭西の新ようつくも盛あを鈕釦襟
留婦人の飾ものあゝらひた置物は數の飾つをあ
るひた傘の柄、杖の涙ふ作をたる者あを象牙彫
りの置物をわゞの國のかのよを大なるかの蓼
サキソニヤの出品の内長さ一尺余九さたわゞが
筆立のりつも大なるかの物どにして咒ども
の姿其外種ゝ彫る雕をあしたり新て日本支那
のものゝ形ちも彫りかゝも大ふ矣なり但し

づもも彫りふして甚ゝ精密なり日本の象牙
彫りを古きものゝ彫り所をあるが自然ふ
ゝゝ簡を失ひ九このほきたる中らみしを色も
いこのみも古びたるゆゝふ作るを青ゝを支那の
りのを多くい密後なる唐ゝさ菜花などを彫り
或ひて人物などを彫る唐菜などをこゝしの粗
ふ彫りぬくものを多しゝ甚法先づ象牙を薬ふゝく
煮て柔ゝこのふ彫り易くして彫る故こをこのき
形を彫るも自在なを但しこられふりて光澤な
ゝいふ西洋の諸國のものを大ふこられふ矣な

り潤澤もあるて艶やかなる事わが國のものゝ如くなして甚明りを神の像、人の像、動物草花などゝ真の物の風致をうつすを精工なるされど古人今人の像の如きなきわざゝ其人あり逢よりおのく賭つてなしていうゆも真に通りたるわが國ゝ能ゆ閑うる翁其外の画などそのおもむきやゝ似ありんされども中ゝうぶべくもあらざる鳥獸草花などゝいふるまで巧妙西洋人の写生ゆを用うる事想ふべし

さて同じ西洋のうちゆも國ゝ其おもむき異なるを墺地利と獨乙とのわきを彫り窩なしてゆのうみたるゆ多く佛蘭西なるをまぐゝゆしてうゝうゝゆこそのき彫りをなし風致を畜とされど獨乙墺地利ゆ花瓶ゆして佛蘭西なるを鮮やゆ獨乙墺地利ゆ濃やゆなして佛蘭西にて佛蘭西ゆ淡白なるを多きを一面ゆ植ゆゝべゝ常磐木の屏ゆ山樹の木板よりしきを二三本交じへ植さるとの如し佛蘭西を衣服をさゝゆを家の作を其外諸道具まで風致を畜とする風おれどなるべし

凡そ象牙は亜非利加より産するものを甚質徴密
にして色も白けれども其價最も貴しといふ大小
種々あるて小なるは二三オンス但し一オンス
位なるあるは大なるは百七八十斤元そ十貫目斗り
といふ埃及の出る所長さ七尺径五六寸もあるべ
きもの其重さ百八十二斤あるそ又英の属地の新
西班のごとく大なる象牙あるまつて稀なり
象牙はまた黒青紫黄色萌黄赤等の色を染むる
事を得るものあるも玉突遊び用うる玉を彈力
あるゝ為に用ふる組き有りいづれも象牙にて作
るこれを赤白両種あるそ赤く染たるもの色極
めて美くし
象牙細工をなすに先づ燐酸ホスホリックエシットといふ
藥を溶したる水に浸し暫く透き布ゆるゆるふく
り時に取出し水にて能く洗ひ柔らかなる布を用ひ
て乾かし細工をなすべしといふ但し空気に触れ
ざれば又もとのごとく堅くなるこれを熱き湯に浸
すべし柔らかなるなり
英國の出品に散龜甲細工のごときさし櫛ありその

かくちを直ぐなるものあり反てたるものあり
直ぐなるものを髮を搖るに用ふるものあれバ
男女の用甚正さしてこれつる事あきものあり其
反てあるものを女の髮を止るに用ふるもの故
其かくち大ゆゑわが國のものと違ひ大きくし
て反りあり其かくち長さ四五寸ばかり
八寸だのもの水牛の角を墨りり坎櫛ハ水牛の
角あるゝ作りたるを示すあるべし
凡そ鯨細工をわが國のもの甚だ賞美せるまた
たる西洋人ハ也わが國のものを上等とする

漆細工蒔繪の技を英語ゝゝジャパンドグードとい
ふ日本の物といふ義あり猶燒物をチャイナ、ワー
レの支那の物といふが如し古よりかくしひ来るを
以くもられわが國の発明ゝゝ世界の名産とな
ず他ハ比類なきを知るべし西洋の漆を其質
わが國のものとを少しく変て乾きたる木の
脂の琥珀質あるものゝゝられゝ乾き易き油を
交ぜ鮮ゝして製したるあるされどわが國の漆
ハ比類なきを其質弱くして温淳の色少しこの故

永和蒙人を初めとして日本のうつしを似る事をつとむ佛蒙西の新奇なる日本摸しの漆器、蒔繪あまた出せり佛蒙西人も更に摸拓するではしめく日本永似せたる富士山松帆かけ船等をつけ多くあるも奥地利のロベルトケレイホンワといふ人の出品永漆塗り又も蒔貝細工等多く小机の上盤を似たるあるも亦も奥地利の漆細工も木を塗りても似たるも大抵も鍍のうるさき板を用ゐる箱廣蓋皿の類あるいも机の上面ゑも似きりも更も薔薇の花あるいハ葡萄林檎其外木の實の類あるいハ山水あるいも多獸ゑも彩色あて石版更のゆうゑ書けるも五色の色どるも甚だ巧をなして金を多く用ゐず又黑漆の地ゑ金て小鳥の如き形をおけるゑ漆の質もよのらぞを際も甚だ拙くして金もまたまたの金を用ゐざる故永近づきて見るバ蒙相ある事あらゝらまどる更模拓色どるも等ようしき故ゑ遠く望めば甚だ美くしと和蒙人青貝細工の机額面数枚あるゝ永ゑ花まゝを出せるものあゑ机も全くわが國の風を

模一四角に切りたる青貝をあつべて彼ぐを
出したる箱の上面に草花を画きたる花に紅あ
る貝を用ゐる業にて係りあるに貝をもちゐて画を
作る事以ての外のモザイクの如一モザイクの事その九才六
枚目の表より
うれたるかもこの頭向を取りうれ
ば仕方を取て交へて一種の新工夫をおもたる
ものあるをうれるに寄あるに青貝細工の額面
作る今其ものに寄あるもの二枚のさまを写一
て其余を略す
一枚の幅一尺二三寸長さ一尺ばかり惣黒漆

地にして青貝にて都の月夜のけしきをおけ
四階五階の家あるべ寺の塔高く聳ゆ月の半
を雲にかくして微かに見るべ甚光を地
上を射て道の敷石に輝やきあるひ家の壁に
映一徒に人の左りに向ふ甚新晴く右に向
ふを甚顔あるにてたるに人新を
地上にあるて長きを用いまるに十分に高くさ一
のがぬ故にそ知るに家にの建物も月に向
よるに背くに甚色おのづに蔭ひあるの違
ひあるを勿論月夜にて遠きにあるを霧のに

またたちやうゐして、定こうふ見へわたりぬけーき元もいまもぞられ皆青貝のをみく恵ぐき出せる
あるを但し人の歌あるいを云彼あどを池僧法の
蒔繪ふく補をひらるるとらんあるとく蔭ひあるこの
こうき落きあるひを所の敷石ゐ月のうつるさま
あどを皆青貝のモザイクあを
其一枚を海上の月夜のれーきみく海中の岩の
上ゐ燈明臺のあるとらかを海上の空気をお
のづく穏穏としたるゐ燈明臺の火の光をゐ
ぐやきたるも月の光をみおされて光明のあぐ
やのあるざるさゐ月の光を波を射てこぐゐ
の艪をたぐよいせ折ふとらる波を岩ふぐさけて
白ゐゐの花をさうとらるさゐいうかも物凄きけ
しきあをいづまもさゐくゐる色の青貝をあう
べて他きられを貝の色の赤をを帯たるを赤く
彩るべきとらるゐ用ゐ縁ハみどをあるべきと
らるゐ用ゐ蔓がくをたるを黄をたるおのくを
の適合をるとらるゐ用ゐく恵ぐきく彩色した
る如くゐおきたるかを隈どるの次第ゐ薄く見
ゆるやうゐをべきとらるを青貝をかうへ低く

墨きゝ漆を其上よりかけくたゝひよりぬりたるまゝ
かゝへを青貝の色其まゝあれ次第に漆の
濃くうるゝまゝこゞひ青貝を見えぬ中よりあらはる
ていりうもかく黒漆の地よりあらはる実に趣向
といひ際といひ撫骨挽胎のもつと
も上なるものといへべし漆の塗りかゝも自
余の諸國のものゝ如く拙なゝ出ぞ艶を出せ
る映額一面の價二百フローリン九十九ヶ二円程余り其外
草花々々せあどの画よりしたるハ價百フローリ
ン九十四ヶ六角程あるもあるかくの如くめづらしく
美しきものを似せ出せるを年来其工業よんを
重ゝ鍛練日を重ねたるよりあるべし且つ
けしきあゞ似せる画を書くわざをも初め名人
の画をもかとして似るよりあゝざれば能ハず以
太利の部よりうる顔面数枚あり但し賣りもの
ゝせざるしあり
和蘭人ハまゝ日本の高蒔繪よりに擬したる六枚屏
風を出せるを画ゝうまで全く日本風よりしたる高低
の位置よく似せ其外高蒔繪のもの箱もあり
いづれも輿地利あるどの蒔繪の模造より優る事万

万あるを但し金の色よりしこうして真の金を用ゐざるあるべし

また支那製を模したる六枚屏風あるまハるを熱黒漆塗をよして支那風の蒔繪をおし中ゐを九きこのし二ツあけく其中ゐを自國のまゝかる池繪人家のりしきあゞ画き裏に支那風の青貝細工ゐあしたる池繪蒔繪青貝細工の三つの枝を一ツの物ゐあつめ互ひの物を比較をる意思あるをして又日本の蒔繪を模したるを飽くまで日本の癖を取る支那の蒔繪を模したるハ又支那の癖を取るて其風致おのづこの別ゐを業ゐ心を専ぱゝゐよるるものゐあらざれを得ざるき事あるを

支那の出品ゐ惣漆塗の屏風ゐ金蒔繪したるものを外搦机ゐ箱等蒔繪のもの種くあり其画様ゐ甚ぶ古雅よしていさゝこの俗氣を帯びぎ伯児斯の漆器をゐ箱ゐ如しいづをも支那製の屏赤あるものゐ似ゐを個し伯児斯の漆器をフルニュスの如く透明あるを画の上ゐ引きて艶を出したるものあるを土耳其人も青貝細工の箱簞笥

其外種々の出來あるも青貝細工を巧みして古風あるまどゐも雅致を失し土耳其人い貝あるく十字形を作る婦人の飾りとなし　あるひを貝を揉て玉とおし頭飾りとするもあるも皆其質下品なり製作も甚ぶ麁末あるも然るまどゐも煙斗泥の彫り物よいさつく形ちの雅あるも際の巧みあるも寔に驚くへき多也

奥地利の出來物箱机の類を木地に作りおし木地ハ角あるひを銀あるひを青貝あどを彫りうみて紋づらをあらいしたるあるも又めづらしく面白きものあり

奥地利の出來物ハ革をきるもぬきてこるもみ色の奥地利の名産ぶりといふたるへき黒き革かつてなる革を切り箱め種々のかたを作るあり奥地利の名産ぶりといふたるへき黒き革ハ茶色の革を切り箱め地ハ赤き革白き革あるまた用うるまた絵い黒き革を用うる等あるまたハ五色の革をいろ〳〵の形ちに切りわかの國にて押繪といふものの如くよせ合せ又ハ以太利の モザイクの如くあるし草花人物木の実あどを作るまこれをもつて箱、文庫御箱金いまた巻烟草い

きゝ札入写真帖の表紙などを似るあらひたる彩色
色々補いたるもの又右のごとく革を切
抜き細工をおして箱の蓋とおせるもの内
磁器ゆきもの花かごの中に花をあこたるあり平
らなる磁器の板に美しく色色したるを思ふま
まに切ぬきて箱もらあり其こうれを切りぬくた
甚ぶたやきをきわざとに人多く輿地利の名物な
るはあり
あらひたるうるし箱の板を唐桑やうの木にて
似て塗らど彩らど木地のまゝ蝙を引き艶

を出したるあり
輿地利の名産あり
雨傘日傘を上品なるもの下直なるもの大なるも
小なるもの等種々出せり其柄は玉石は例の人
の顔などの巧みに彫りたるをつけあらひたる獣
かゝ草などの彫りをなせるあり婦人の
用うるものは笄羅を飾とし種々の飾りを附け
たり小なるものは唯その面を覆ふ為なるなど
なるあり輿地利の郡は孔雀の尾なりの笑くし
きゝ玉のはきたるまゝ似たるあり種々の色は

染かーたゝか駝鳥の羽のみゝく飾きるあるを以て利
の新あた造て花をほけたるものあて
扇を男子の用具よあゝぞーて弓パ〳〵婦人の必
用の和あて其形ちをわゞの國のものゝをいさゝ
この美あて大抵わゞの國のものよて大ー長くーて
要よ色くの紐を居けひとーて細工よんをこめ
いうよも美くーくきるを、有ときるゝと見えたて
その狀骨を鼈甲象牙あどを用ゐあるいを肌理
こゝまくのある木を用ゐさゐ〳〵の形ぬきもゆうを
ふーあるひを滑ーー革あるひを布よ花を縫ひ多
るあどを以く覗骨を色こあどを其形りぬきて
る所あたらゐくーーき布みを孔雀の羽のあどを
をこのーよーあるひを金骨、蒔絵の骨金銀もーく
を金鋼石真珠等の飾りを附けたるあるひを七
寶の入てたるもあて子骨を多く緑を用う地紙
たうをき絢あて俳諧西の出不り青貝骨よ絢張
の扇の其ゝ美ーきあり懶地利の形よ孔雀の尾をの
あて作てたゝ國扇あて又狀骨を寄せ木細工よ
て作てたるあて支那の出不の図よ尋常よて
ホど大形ある扇あて其形ちをわゞの國のもの

如く竹の平骨ゐして英漢對譯字書を写去ゐし
て両面ゐ張ることなるあり精良といふべきゐをあ
ら私どもおもしろし
バロンシワルツセンボールンといふ人を性聰
敏ゐして学術ゐ達し年来自國の工業を進歩せ
しむる事ゑこうちをらゑるものゐて他國の
博覧會ゐも度く糸含し其りゆうをもよく知る
人あるを此度の含ゐを此人ゐ総指揮を掌らせ
給へと墺地利の諸の工業家一統同意して申立
しのば忽ち其申出の如く総指揮官を命ぜらを

二年の冒ゐ万端の用意行届き此含を成熟せを
されば此バロンシワルツ氏の顔を画きたる團
扇を作るものあを表ゐを其顔を画き裏ゐシワ
ルツ氏の形ゐして其傍ゐあるゑうちゐ世界
の圖を書き其中ゐ此度の含場の圖を画りり
此度の万國博覧含を皆此人の発裏ゐ在をい
ふを見るべし場中ゐ多くこれを賣を初めしのば
一時流行し其ぐ盛んある事あるき
わが國ゐも絵團扇あまく持らして庭の賣店ゐ
て賣らせさをしにうれまく大ゐ流行し博覧會

の見物人わをもくと買ひ帰りをきれば何の國
の人の心ばき赤至急よりの國よりをれを
取よせたりと見へて場中を勿論維納の市中よ
てもらかーらみ賣る者あるを見あり後より摸
造するものさへいできくられもよく賣らるる
を
もの摸者の扶胴乱の扶旅中より用ふる箱の扶皆扶
色の物あるもの摸者を摸ぎをあるひを華よく似る或ひ
をおうたんやうの織物よく似る胴乱を墺地利
の出羽より小豆色のやうーこのき滑ー華よて似

たるもの多し旅箱まと稜くあるも其もつをも
精良あるを尋常のもの如く衣扶を容るる所
帽を入るるところ等の外猶こまかよ仕切をて
筆墨を入るるところ櫛道具を入る所等を別
にあるひを櫛道具のミを入るるの箱あり蓋
をひらけば鏡とあるを稜くの櫛刷とを鋏等の物
よを香水いきをおくるところ剃刀及び砥石よ至
るまで皆一箱よ倶ひあるあり又薬箱を稜
その瓶をたてあるべ旅行用意の食箱を麺包乾
肉等を入るるところを初とし酒を入るる所四杯

小刀匕三ツまゝ笥を伐よ、うれ蕪氣車の内よて
用うるものあるを大抵かゆうある箱を桐乱の如
く小豆色の漆ー革のゆうこのきものよく作り
鍍金ーたるかゆものを打ちたるまゝ大小種々
の箱の蓋よりの島貝あるひを真ぶ小さ紀帀
貝子安貝などの如きをさらして美ーき艶よ有
したるをあゝべたるあるあるひを真背よ彩り
美ーき石版画よ艶漆引きて艶やかよしたるを
いれあどーたるもあるを
其外坎匡よ属するものを懐中鏡よ札いを、写真

帖、巻煙草入金いをの類等あるを文房具を筆掛け
墨壺、砂いれ筆立、硯水いを等郵便を出すよりた
る紙の目方を初るべき事毎常のるあるを殊
さらる紙の目方を測るべためよ作をたる秤あ
るうれ并十四匡よりも屬するもども又坎匡文房具
の類よりも出せを
大人の遊び道具を将棋、碁、かるた、五突、ゆ
ゝ
てうれらも坎匡よ屬するものあるを将棋盤を
縦横八目ゝ即ちち六十四目うれを市松よ塗る
駒の数三十二よーて一方を黒一方を白あるひ

を赤とを各を一ツ女王一ツ砲臺二ツ僧二ツ騎兵
二ツ歩兵八ツつゝあるを墺國人の出るゐ盤駒兵総
鍍金ゐゝ作るたるものあるを隻六もつゝの國のも
のゝ大抵同ゞ玉突の盤を大なる机ゐして四方
ゐ縁あるを中を崩黄羅紗を張る隅ゐを球の落
て入るべき孔を作るをこれゐ網袋をさゝげて入る
たるゐ球を受くべうゝしも球を象牙製ゐゝ径一
寸五六分もあるゞし赤白二いるあるを球を突く
杆を木ゐゝ先き細ゐ作る玉羊を作る木を机把
通るを同ゐゝ軽くして丈夫ゐ且ツ球を突くるき

籠きあるものをよゝるを然るゐ欧羅巴ゐを加
る木あゝざ形放ゐたるゐ東印度より輸入をと
いふ
玉突道具を旅筋あるひを珈琲店あるひを貴人
の家ゐゞゐあるを賓客あまゝ集ゞるところ
ゐゝ用うるものあるゞことさら廣大ゐして英
ゝ其製作其ゞんをこゝあたるものあるを墺地利
の新ゐ玉突道具のを出ゐしたるところあるを
英ゝき事格別あるを
小児の抗び戯を共已ゐも出したるゞも凡を小

見かゝる事を別ゐ一冠をたて甚とらゝゐも
出したるこを見聞のあゝにまゝを見聞錄別記童子
館の部ゐもるゝこゝゐをもらさで
わゝが國の漆器、蒔繪及び唐銅細工ゐ尹一等の褒
賞を得たゝ
其余を獨ひのハンボルクのメイエルといゐ人
の錄細工同國普魯社の燒珀細工會社佛蘭西の
郡巴里斯のコルニューインゼーンの社中のかゝ
かゝ細工ゐゝて此已ゐゝ分一等の褒賞を得と
るをわゝが國のものを合せゝ四箇あゝ

わゝの國此区ゐゝ賞牌を得たるを新井氏長澤、橋
本市義、池田泰真、柴田是真、杉本屋長次郎、若井兼
三郎の漆器、若松紙の漆器、愛知紙の七宝細工、石
川紙及び越中高岡の製造社、本間孫高、百瀬惠右
衛門、孝氏、小竹清吉、横山孫左衛門のかゝ、この細工
東京の小習物もて遊ひもの、孫ゐを表章を得
たゝゐを七尾紙の漆器、西京の黃銅社、奥村房次郎、
中川淨益、道高、鈴木善兵衛のかゝ、この細工、龍文
堂安て助、龍紙の細小紙ゐかゝ、この細工を七
区ゐゝ褒賞を得たるもの又此区の褒賞を得た

るものあるを共区区として其美麗（びき）ゆゑて飾（ぐ）りとゝ
ゝ亦堪（た）ゆるところをもつて賞せしあるべし

博覧會見聞錄卷之十終

新聞紙條例

特39
322